

サポート

No. 198

令和6年1月22日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

第21回 秋田県特別支援学校文化祭～みんなの写真展～

キャッチフレーズ「広がれ みんなのうれしい たのしい ^{ハート}心」のもと、第21回秋田県特別支援学校文化祭が開催されました。今年度、秋田県特別支援学校文化祭は20周年を迎え、「わくわく美術展」及び「みんなの写真展」では、今までの賞に加え、特別賞として20周年記念賞が選出されました。

今回は、秋田県特別支援学校文化祭の中から「みんなの写真展」について御紹介します。

「令和5年度みんなの写真展」は、秋田市拠点センターALVE（11/15～16）、秋田市にぎわい交流館AU（12/1～4）の2カ所で行われました。応募総数379点のうち入賞作品55点が展示され、6日間で延べ715人の方に鑑賞していただきました。

お客様からは、「子どもたちの表情がよい」「発想が面白い」「学校の雰囲気が伝わってくる」などの感想が聞かれました。特にALVEでは、駅や施設に立ち寄った幅広い世代の方が、足を止めてくださり、写真を通して特別支援学校の子どもたちの生き生きとした日常や、他にはない視点を感じてもらえたことと思います。

今年度の審査員からお話があった選考基準の一つは「撮った人の思いがどれだけ写真に表れているか」でした。一つ一つの作品を前にする度に、まさに子どもたちは自分なりの思いを表現しているのだと感じさせられました。

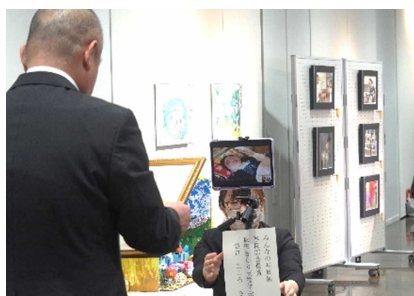
（聴覚支援学校 教諭 加賀谷 衿子）



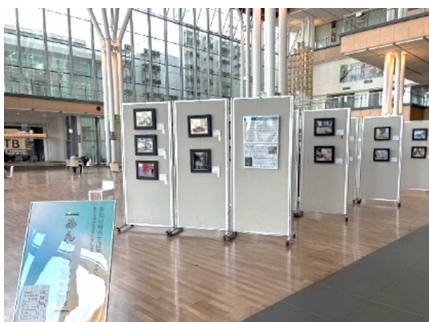
最優秀賞「かしや！」
附属特別支援学校小学部1年



最優秀賞「きれいな花火」
附属特別支援学校高等部1年



病院で学習している生徒へのオンラインでの表彰



ALVE 展示風景

「交流及び共同学習」の取組～小学部と鶴舞小学校との学校間交流～ 県立ゆり支援学校

本校では、地域の児童生徒同士が相互にふれ合いながら、互いを認め合い、尊重し合って活動する姿をねらって、小・中・高等学校との学校間交流や、小学部児童の居住地校交流を積極的に行っています。

小学部では、鶴舞小学校との学校間交流を平成11年度から続けており、今年度も鶴舞小学校の4年生と相互に学校を訪問し合って、活動グループごとに自己紹介を交えた会話のやり取りやゲームを楽しみました。鶴舞小学校で行った事前学習では、特別支援学校の紹介の他に「ゆり支援学校の友達の得意なこと、苦手なこと」をもとに「こ



「まだどこかにあるよ。」
お宝さがしゲーム



鶴舞小学校児童考案の倒れても
大きな音が出ないピン
(綿が巻かれています)

うしてくれるとうれしいな」という視点で「みんなで楽しく過ごすヒント」を伝えました。鶴舞小学校の児童が相手の気持ちを考えた接し方や共に楽しめる活動の工夫を発想することにつながりました。2回目の交流会では名前を呼び掛けて近くで話す、ボウリングのピンに工夫を加える、活動の流れやルールを文字で見せながら説明するなどの本校児童に寄り添って関わる姿がたくさん見られました。本校児童も温かい関わりの中で自分の力を発揮しながら、気持ちが通じ合う楽しさを感じているようでした。今後も、実際に接することで深まる理解や、共に育ち合う喜びにつながる「交流及び共同学習」を積み重ねていきたいと考えています。

(ゆり支援学校 教諭 佐々木弘美)

ICT 活用実践紹介

タブレット型端末の持ち帰り学習について 県立能代支援学校

本校では令和5年6月下旬から、児童生徒用タブレット型端末の持ち帰り学習を始めました。ICT活用推進リーダーとしては最初に、各学級担任が「どんな学習をすればよいか」考える手掛かりを提示しました。写真を使って学習の様子を家庭に伝える、メモアプリを使って日記を作成するなどの学習例です。さらに「持ち帰り学習の実施アンケート」を定期的に行い、各学級での取組の実態を把握するとともに、学習での活用に必要なとされる機器設定や情報提供については、教務部を中心に対応できるようにしました。



「お」の付く言葉を探して
書こう

7月、10月に行ったアンケート結果からは、全校で半数近くの学級が1回以上の持ち帰り学習を実施しています。また、事情により家庭にいる生徒と在籍する学級をZoomで接続して友達と一緒に朝の会を行う、毎日家庭で「○の頭文字が付くもの探し」を学習している児童など、学級担任が各自に応じた課題を設定し、継続した取組をしている例も徐々に見られるようになってきました。

冬季休業中は、ロイロノート、フリーボード、Canva、iMovieの授業活用を想定した研修会を実施し、タブレット型端末の持ち帰り学習だけでなく、授業での活用を進めるための研修を行っています。

(能代支援学校 教諭 高橋 勝)

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

「通常の学級実践研修」は、通常の学級の担任と特別支援教育支援員による提示授業に基づく協議を実施することにより、通常学級の担任の実践的指導力の向上を図る研修です。

小・中学校等における特別支援教育の充実に向けて ～ユニバーサルデザインの考え方を生かした工夫について（通常の学級実践研修より）～

「平成25年490人→令和4年1037人」（第四次秋田県特別支援教育総合整備計画資料より）これは、「通常の学級における障害の診断のある児童生徒」の人数の変化です。10年でほぼ倍増しています。このような人数の変化は、学級経営や授業に影響します。そのため、ユニバーサルデザイン（以下UD）の考え方による工夫が大切になってきます。今回は、由利本荘市の「通常の学級実践研修」でのUDの実践例を紹介します。



学習の予定や履歴が見やすくまとめられた壁面

①授業への見通しがもてるUD

岩谷小学校では、教室の壁面に単元計画と各時間のまとめが掲示されていました。「今日の勉強は何をするんだろう？」「前の時間は何をしたんだっけ？」といった疑問が壁面を見ると解決できます。子どもたちが、期待感や安心感をもって授業に参加できる工夫です。

②グループでの話し合いを効果的に進めるUD

ホワイトボードに話し合いの流れや役割が明記されている、個人の意見を書く場所、話し合い後にグループの意見を書く場所が分かれているなど、複数の学校で活動を分かりやすくしたり、意見をまとめやすくしたりする工夫がありました。また、鶴舞小学校では、マイクに見立てた道具を話し手



音読が苦手な子どもが、安心して声が出せるように、斉読の前に先生と練習

に向け、インタビュー形式で意見を引き出し、話しやすくしている工夫もありました。

③積極的な授業参加につながるUD

西目小学校では、国語の斉読に自信が無い子どもたちは、授業者と一緒に読み方を事前に確認する音読練習を実施していました。その後の斉読は、全員で大きな声での音読ができました。

UDを意識した実践は、子どもたちの学習参加への意欲の高まり、授業での分かった、できたの成就感につながります。ぜひ、活用してみてはいかがでしょうか。

（中央教育事務所 由利出張所 指導主事 高橋 直志）

令和5年秋の叙勲 受章おめでとうございます

この度、本県特別支援教育の充実と発展に尽力され、その御功績により、元県教育庁参事（兼）特別支援教育課長の江橋 宏栄 先生が、瑞宝双光章を受章されました。

伝達式は11月13日にホテル椿山荘東京で行われ、終了後は皇居にて天皇陛下に拝謁しました。

江橋 宏栄 先生は、12月13日に特別支援教育課に来課され、伝達式の様子などを御報告いただきました。

この度は本当におめでとうございます。

